

2011年度

科目名	心理学演習 I B				
担当教員	井上 徹				
配当	人社3		コード	25033	
開期	後期	講時	火曜日5限	単位数	2
授業テーマ	心理学研究に利用される多変量解析の実際				
目的と概要	心理検査における項目作成や、態度調査の結果分析に必要な多変量解析法を、実際のデータ分析を通して理解することを目的とします。多変量解析法について概観した後、重回帰分析、因子分析、クラスター分析、共分散構造分析、さらに数量化Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類について、統計パッケージを用いて、実際のデータを、受講生自らが分析します。それによって得られた出力結果に基づいて、それぞれの解釈のポイント、留意点を解説していきます。				
成績評価法	レポート(60%)＋ 各時間におけるミニレポート(40%)＋ 質問などを通して垣間見る、理解への意欲度も加味します。				
テキスト	授業中にプリントを配布します。				
参考書					
履修に当たっての注意・助言/準備学習	1回1回の積み上げが大切です。常にパソコンを使って演習しますので、欠席すると分からなくなります。欠席しないように。基本統計の「相関」について理解しておくこと。 事前に次回の予告をするので、いろいろな文献で当該の事項について調べておくこと。				
講義計画					
1. 多変量解析法とは何か 2. 重回帰分析 (1) 重回帰分析法の意味 1：共分散と相関 3. 重回帰分析 (2) 重回帰分析法の意味 2：最小自乗法 3. 重回帰分析 (3) Excelを用いた重回帰分析 4. 重回帰分析 (4) 結果の解釈 5. RとSPSS 統計解析プログラム 6. 因子分析 (1) 因子分析法の意味、調査事例 7. 因子分析 (2) R、SPSSを用いた因子分析 8. 因子分析 (3) 結果の解釈 1：因子負荷量 9. 因子分析 (4) 結果の解釈 2：直交解、斜交解 10. クラスター分析 (1) クラスター分析法の意味、調査事例 11. クラスター分析 (2) SPSSを用いたクラスター分析 12. クラスター分析 (3) 結果の解釈 13. 共分散構造分析 (1) 共分散構造分析の意味、調査事例 14. 共分散構造分析 (2) Amosを用いた共分散構造分析 15. 多変量解析法のまとめ					